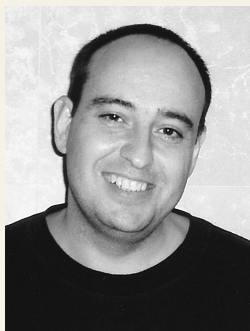


研修員に聞く

お国自慢あれこれ



ゲオルギ・アポロン・クリストデューロさん
(ルーマニア)

Mr. George Apollon Christodulo

ルーマニア、ブラショフ市国際関係戦略開発部部长

JICA札幌の「地域開発計画管理セミナーⅡ」

コース(2003年9月9日～11月1日)で研修。



カルパチア山脈とドナウ川

アルプス山脈から続くカルパチア山脈が国土の中央に「つ」の字形に延びている。カルパチアから流れ出た大小の河川はドナウ川と合流して南のブルガリアとの国境を流れ、ルーマニア国内に戻った後再び幾筋もの河川に枝分かれてドナウデルタを形成、黒海に注いでいる。

紀元100年頃にローマ帝国の属州になったこの地はラテン系のルーマニア人の国へと発展してきた。各地に残っているローマ時代などの遺跡は現在観光資源になっている。観光ではカルパチア山脈一帯のスキー場も人気があるそうだ。

アポロンさんの出身地ブラショフ市はトランシルバニア盆地の南端に位置し、15世紀にザクセン人が創建した商業都市である。トランシルバニアは、民間伝説のドラキュラの故地としても有名で市近郊にはドラキュラ伯爵の城と伝えられるブラン城がある。トランシルバニアはヨーロッパの東端、中世以来ハンガリー、ザクセン(ドイツ)、チェコなどの各民族が住み暮らした地域でもある。

少数民族としてのギリシャ人

ルーマニアは旧東欧諸国のひとつで2007年のEU加盟を目指して政治、経済など民主的な改革に力をいれている。2000年、新政権発足後、「20%以上の少数民族を抱える地方自治体においてはその少数民族の言語を行政に使用する」ことを定めた。総人口2200万人のうち700万人がハンガリー人かハンガリー系市民である。第二次大戦後ドイツ人は引き揚げたが文化的な影響はまだ色濃く残っている。黒海沿岸部の都市は古代ギリシャ時代に起源があり、現在もギリシャ文化の名残がある。アポロンさんの一族はギリシャ系である。おじいさんの代に移住してきたという。

「第二次大戦後政治的に苦しい時期もあったが、古代ローマ帝国にさかのぼる伝統や文化、言語に共通点があることでフランスやイタリアが常に支援してくれた。また、ルーマニア人自身が共生意識が強いこともあって概ね平和に暮らしてきたことは幸でした」と国民性を説明してくれた。

北海道に来て良かったこと

「日本とはまったく縁がなかったが、このコースに参加してよかったです」と、その理由を三つあげてくれた。「研修を通じて専門的な知識を得たこと、個人的には外国の文化を学び生活を体験できたこと、そして同じコースに参加した各国からの研修員と交流できたことです」。

研修期間中に一人息子のディオス(“神様という意味”とか)君が誕生日を迎えた。ちょうど研修員仲間でカラオケパーティーがあつて、その場にいた16カ国の研修員たちにそれぞれの国の“誕生日おめでとう”の言葉を書いてもらって誕生日カードを送った。「このカードは息子にとって将来とも宝物になるでしょう」

「札幌市アイヌ文化交流センター」を訪問

帰国も間近になった頃、「アイヌに会える機会はないか」との意向が伝えられた。「自分も故国では少数民族に属している。せっかく北海道で研修したのだから、アイヌの人と会って話したい」ということであつた。北方圏センター職員がたまたまアイヌ民族の方と知己があつて、「札幌市アイヌ文化交流センター(南区小金湯)」に案内した。外洋船イタオマチツプや伝統の衣裳、生活用品の収集展示を見学したほか、敷地内に建てられたチセ内では、伝統文化を継承してきたアイヌの職員の方から話を聞いた。

ブラショフ市は春に民族の歌や踊りのフェストがあるそうで、「アイヌ民族の参加は可能だろうか」とひとつのイメージを抱いてアポロンさんは帰国した。

首都はブカレスト。通貨はLei(レイ)で1米ドル=34,000Lei。



こんな平和な世界を—3人のJICA研修員。(左から)バンカジさん(ヒンズー教徒、インド)、アポロンさん(キリスト教徒)、アブロールさん(イスラム教徒、タジキスタン)(小樽市内のお寺の境内で)